



# 倭の文化や歴史の再発見、その機会をこれら著作を通じて与えて下さったことに、大変感謝いたします。

自然療法師 アメリカ合衆国 ペンシルベニア州在住  
新家 江里香

私は1970年代に生まれ、今では日本を離れていますので、日本の文化や伝統の中に生きるといふよりも、「文化人類学的」視点で日本の文化をとらえているように思います。

けれども、手が届かないがゆえに、倭の文化や歴史を愛おしく思います。

『倭詩』『続倭詩』は本当に、倭の文化や歴史の再発見、その機会をこれら著作を通じて与えて下さったことに、大変感謝いたします。

「いのち」を通じて「おおもと」が示す無条件の愛、真理、それを見いだす先人の先見の明。そして、それを大切にできる日本人の心。

時代という限られた条件のなかで、それら真理をしのばせて伝える知恵や技。秘めたものがあるからこそ、そこに美しさが見いだされるのでしょう。

これもまた「ゆかし」さに惹かれる日本人の心情のあらわれかもしれませんが。

感嘆の声を禁じ得ず。。。大変な学びとなりました。

いつも念頭に置いているのは、『倭詩』で言及されている蛙、もっと水の深さを知る蛙となることができれば、と思います。



## 倭詩二冊は、ご家庭に常備されることを、合わせて願っています。

札幌市 清田区 松澤 洋



著書『倭詩』を読ませていただきましたが、今回、続編も合わせて、二冊通して読ませていただきました。

『倭詩』を読んだときにも感じましたが、二冊通して読むことになった今回もまた、圧倒されました。



それは、宮下さんの出自、経歴、探求心、多方面への尽きない興味、圧倒的な行動力、他を寄せ付けぬ信念、まさかと思えるキリスト教との繋がり、日本における信仰の歩み、紐解かれた史実や発見は、全く新鮮でありました。まさか、あの六段が、とこれも睡然とする発見を知らされたことは、嬉しくもあり、不思議な縁をも感じました。

小泉先生、森下先生とのご縁が取り持つ様々な商品開発でも、多くの時間がかりながら最終的には商品化され、評価を得ていることも、驚きです。

更に、「小国寡民」をこれからの我々の生きる最良の道としておられることも、賛同できます。食料安全保障が無くて国の存続はあり得ません。効率が良いから、収穫量が多いから、等々量の拡大だけを追い求めても、アメリカのような農業になり、作り過ぎた小麦やトウモロコシを他国に販売し、成長促進ホルモンだらけの肉作り、単一種になったバナナの病気による供給不足が懸念される事態です。

この四季ある日本で限りある耕作地を大切に守り、必要な量を賄うためには、まさに小国寡民の考えで進み、他の国に対して強くある必要もなく、自分たちが満足できるもの、季節毎にできる物を恵みとしていただく気持ちを持ち続け、縄文人たちが暮らしていた心豊かで、平安で、自然からの季節毎の恵みに感謝できる時代の到来を願う気持ちを、強く持たせてもらいました。

小泉先生が提唱する発酵エネルギーによる発電システムは、早急にこの日本でも電力の自給自足ができるシステムであり、ぜひ実現してほしいです。

将来に 難しい負の遺産を残す原子力発電や、巨大な装置のいる風力発電、太陽光発電、水力発電、等などは、メンテナンスに継続的に莫大な費用を費やし、生態系にも大きな負担をかけると思われます。自然に対する負担の少ない発酵エネルギー発電に期待しています。

本文にご使用の宋朝体は良いですね。私が務めていた会社では、明朝体に近い集英体と言われる活字を使用して書籍印刷していました。集英体は明朝体よりは読み易いと思いましたが、社長の表現を生かすには宋朝体は最適でした。

社長が薦めておられるように、倭詩二冊は、まほろばファンのご家庭に常備されることを、合わせて願っています。

ありがとうございます。

2017、2月8日



### amazon.co.jp 掲載の書評より

## 「名著、愛蔵版と呼ぶにふさわしい一冊」



投稿者 AIBIREO.H 投稿日 2017/3/31 Amazonで購入

一読してまず、著者宮下周平氏のその碩学ぶりに驚く。

この本を彩る話題も時代も人物たちも多岐多彩。話題は、日本に四季ができるわけから秦の始皇帝、日本古代史の謎の人物徐福、孔子の作曲とされる曲や諸葛孔明が奏でた古琴、龍安寺の石庭を黄金律で鑑賞する視点、民謡江差追分、タイラオスの村人たちとのフェアトレードから生まれた布、味噌・醤油・日本酒の個々の蔵元から発酵食品全般、身近な生活の一つ一つのシーンまで。

時代は紀元前3世紀から、江戸、明治、昭和、現在の福島と網羅。

登場する人物は上記の中国人徐福から、鴨長明、明治期に来日した多くの外国人たち、昭和の名僧たち、マルク・シャガールや上村松園などの画家、数学者の岡潔、発酵学の小泉武夫などなど国の内外・古今にわたっている。

この本に出てくるエピソードは、普通では到底考えられないような、邂逅や出会いに満ちている。例えば、孔子の76代目の孫と徐福72代目の孫と著者との出会いだ。

巡り会いが生み出す驚くような実りにも溢れている。著者の願いに響振するかのごとく世界中から集まってくる原料や材料で出来上がっていく新しい品々の例。

人生はなんて豊かなのだろう。

「求めよ。さらば与えられん。」  
読者はこの本を読みながらこうした夢もみられるのだ。

採用した字体、使っている紙にも著者宮下周平氏のこだわりが行き渡っている。写真家島田浩さんの写真もすてきだ。

巻末に収められた、地球環境問題研究家の船瀬俊介さんと国際自然医学会会長の森下敬一さんと著者との鼎談も、生命の根本としての水に焦点をあてながら幅広い話題におよび、多くの示唆を与えてくれる。

名著の定義が「読むたびに発見があること」だとすれば、この本はまさしく名著と言える。読むたびに新しいことに気づかされ、新たな知的探求が促される。

著者と読者の感応道交を味わえる一作だ。



## 『森下自然医学』4月号にも掲載されました。

森下自然医学 Topics

やまとうた  
森下会長推薦『続 倭詩』宮下周平著・絶賛発売中!!

まほろば主人こと宮下周平氏は、『倭詩』に続いて、昨年末『続 倭詩』を上梓されました。本誌「森下自然医学」に連載の詞章に、新たに3篇を加筆。さらに、「水とは医学」——森下敬一 国際自然医学会会長・船瀬俊介 地球環境問題評論家と宮下氏の鼎談（『森下自然医学』2009年1・2月号）を収録——を、本文と区別して横組みで巻末から読めるよう裏表紙にそのタイトルを紹介しています。

※四六判 386 ページ・定価 2800 円＋税 (IDP 出版)

5 森下自然医学 2017.4

「水とは医学」  
——霊水に込められた哲学をひもとく——

鼎談  
森下敬一・国際自然医学会会長  
船瀬俊介・地球環境問題評論家  
宮下周平・(株)まほろば代表取締役社長

幼少のときに母親を亡くされた宮下氏は、人生の道々遭遇した一人ひとりとの縁を大事にし、その人たちの大切な思いを、新しい知見とともに掘り起こし、再び命の輝きを与える……。読者は、宮下氏の氣魄に満ちた一語一語、一行一行に導かれて、懐かしさとともに大なる「真実の自己」に気付かされ、深い情緒となってさらに生きていく力を得ることでしょう。

\*本書はアオゲラ通販・グルージアでもご購入いただけます。

森下自然医学 2017.4